



CHAPTER 4

Cisco IOS Configuration Engine の設定

この章では、スイッチの機能を設定する方法を説明します。



(注)

Cisco Configuration Engine の設定の詳細については、次を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/netmgmtsw/ps4617/tsd_products_support_series_home.html

この章で使用されるコマンドの構文と使用方法の詳細については、次の URL にある『Cisco IOS Network Management Command Reference, Release 12.4』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/netmgmt/command/reference/nm_book.html

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 「Cisco Configuration Engine ソフトウェアの概要」(P.4-1)
- 「Cisco IOS エージェントの概要」(P.4-5)
- 「Cisco IOS エージェントの設定」(P.4-6)
- 「CNS 設定の表示」(P.4-14)

Cisco Configuration Engine ソフトウェアの概要

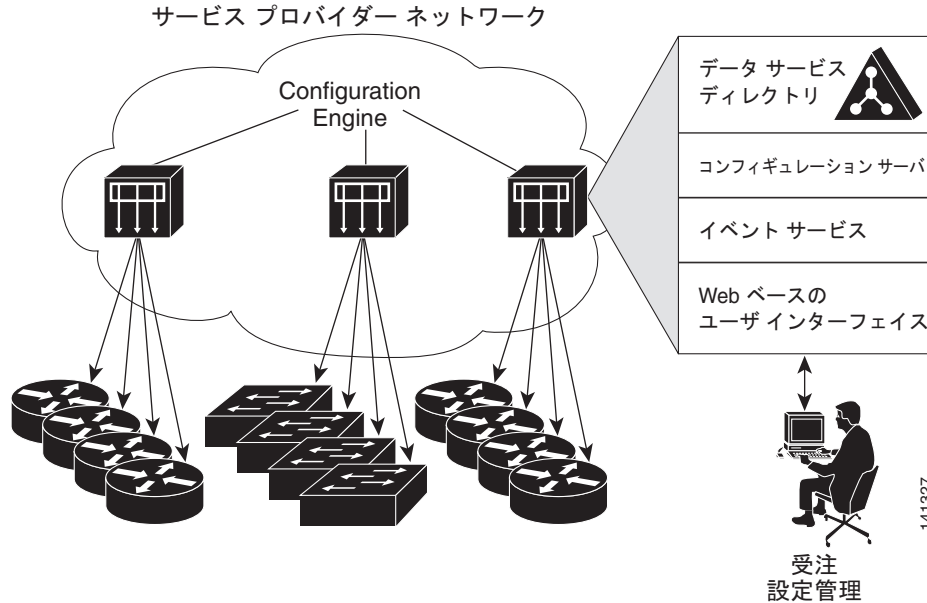
Cisco Configuration Engine は、ネットワーク管理ソフトウェアで、ネットワーク デバイスおよびサービスの導入と管理を自動化するためのコンフィギュレーション サービスとして機能します (図 4-1 を参照)。各 Configuration Engine は、シスコ デバイス (スイッチとルータ) のグループとデバイスが提供するサービスを管理し、設定を保存して、必要に応じて配信します。Configuration Engine はデバイス固有の設定変更を生成してデバイスに送信し、設定変更を実行してその結果をロギングすることで、初期設定および設定のアップデートを自動化します。

Configuration Engine は、スタンドアロン モードおよびサーバ モードをサポートし、次の CNS コンポーネントを備えています。

- コンフィギュレーション サービス (Web サーバ、ファイル マネージャ、名前空間マッピング サーバ)
- イベント サービス (イベント ゲートウェイ)
- データ サービス ディレクトリ (データ モデルおよびスキーマ)

スタンドアロン モードでは、Configuration Engine は組み込みディレクトリ サービスをサポートしません。このモードでは、外部ディレクトリまたはその他のデータ ストアは必要ありません。サーバ モードでは、Configuration Engine はユーザ定義の外部ディレクトリの使用をサポートします。

図 4-1 Configuration Engine アーキテクチャの概要



ここでは、次の概要について説明します。

- 「コンフィギュレーション サービス」 (P.4-2)
- 「イベント サービス」 (P.4-3)
- 「CNS ID およびデバイスのホスト名に関する重要事項」 (P.4-3)

コンフィギュレーション サービス

コンフィギュレーション サービスは、Cisco Configuration Engine の中核コンポーネントです。スイッチ上にある Cisco IOS CNS エージェントと連携して動作するコンフィギュレーション サーバで構成されています。コンフィギュレーション サービスは、初期設定と論理グループによる大規模な再設定のために、デバイスとサービスの設定をスイッチに配信します。スイッチはネットワーク上で初めて起動するときに、コンフィギュレーション サービスから初期設定を受信します。

コンフィギュレーション サービスは CNS イベント サービスを使用して設定変更イベントを送受信し、成功および失敗の通知を送信します。

コンフィギュレーション サーバは Web サーバであり、コンフィギュレーション テンプレートと組み込みディレクトリ (スタンドアロン モード) またはリモートディレクトリ (サーバ モード) にストアされているデバイス固有の設定情報を使用します。

コンフィギュレーション テンプレートは、CLI コマンド形式で静的な設定情報を含んだテキスト ファイルです。テンプレートでは、変数は、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) URL を使用して指定します。この URL はディレクトリに保存されているデバイス固有の設定情報を参照します。

Cisco IOS エージェントは受信したコンフィギュレーション ファイルの構文をチェックし、イベントを発行して構文チェックが成功または失敗したかを表示します。コンフィギュレーション エージェントは設定をただちに適用することも、あるいは同期化イベントをコンフィギュレーション サーバから受信するまで適用を遅らせることもできます。

イベント サービス

Cisco Configuration Engine は、設定イベントの受信および生成にイベント サービスを使用します。イベント エージェントはスイッチ上にあり、スイッチと Configuration Engine のイベント ゲートウェイ間の通信を容易にします。

イベント サービスは、非常に有効なパブリッシュ サブスクリプション通信方式です。イベント サービスは、サブジェクトベースのアドレス指定を使用して、メッセージを宛先に送信します。サブジェクトベースのアドレス表記法では、メッセージおよび宛先には簡単に均一な名前空間を定義します。

NameSpace Mapper

Configuration Engine には NameSpace Mapper (NSM) を装備しています。NSM は、アプリケーション、デバイス、またはグループ ID、およびイベントに基づくデバイスの論理グループ管理用に検索 サービスを提供します。

Cisco IOS デバイスは、`cisco.cns.config.load` のように、Cisco IOS ソフトウェアで設定されたイベント サブジェクト名と一致するイベント サブジェクト名だけを認識します。namespace mapping サービスで、任意の命名規則を使用してイベントを指定できます。サブジェクト名でデータストアにデータを入力した場合、NSM はイベント サブジェクト名ストリングを、Cisco IOS が認識するものへ変更します。

サブスクリプションの場合、一意のデバイス ID とイベントが指定されると、名前空間マッピング サービスは、サブスクリプション対象のイベントセットを返します。同様にパブリッシュの場合、一意のグループ ID、デバイス ID、およびイベントが指定されると、マッピング サービスは、パブリッシュ対象のイベントセットを返します。

CNS ID およびデバイスのホスト名に関する重要事項

Configuration Engine は、設定済みのスイッチごとに一意の識別子が関連付けられていることを想定しています。一意の識別子は複数の同義語を持つことができますが、各同義語は特定の名前空間内で一意です。イベント サービスは、名前空間の内容を使用してメッセージのサブジェクトベース アドレス指定を行います。

Configuration Engine では、2つの名前空間（イベントバス用とコンフィギュレーションサーバ用）があります。コンフィギュレーションサーバの名前空間では、*ConfigID* という用語がデバイスの一意な識別子です。イベントバスの名前空間では、*DeviceID* という用語がデバイスの CNS 一意識別子です。

Configuration Engine は、イベントバスとコンフィギュレーションサーバの両方を使用してデバイスに設定を提供するため、設定済みのスイッチごとに ConfigID と DeviceID の両方を定義する必要があります。

コンフィギュレーションサーバの1つのインスタンスでは、設定済みの2つのスイッチが同じ ConfigID 値を共有できません。イベントバスの1つのインスタンスでは、設定済みの2つのスイッチが同じ DeviceID 値を共有できません。

ConfigID

設定済みのスイッチごとに一意の ConfigID があります。これは対応するスイッチ CLI アトリビュートに対する Configuration Engine ディレクトリへのキーの役割を果たします。スイッチ上で定義された ConfigID は、Configuration Engine の対応するスイッチ定義の ConfigID と一致する必要があります。

ConfigID は起動時に固定され、スイッチホスト名を再設定した場合でもデバイスを再起動するまで変更できません。

DeviceID

イベントバスに参加している設定されているスイッチは、それぞれ、一意の DeviceID を持っています。この DeviceID は、スイッチの送信元アドレスと類似しているため、バス上の特定の宛先としてスイッチを設定できます。**cns config partial** グローバル コンフィギュレーション コマンドで設定されたすべてのスイッチは、イベントバスにアクセスしなければなりません。したがって、スイッチで生成される DeviceID は、対応する Configuration Engine のスイッチ定義の DeviceID と一致しなければなりません。

DeviceID の発信元は、スイッチの Cisco IOS ホスト名によって定義されます。ただし、DeviceID 変数およびその使用は、スイッチに隣接するイベントゲートウェイ内にあります。

イベントバス上の Cisco IOS の論理上の終点は、イベントゲートウェイに組み込まれ、それがスイッチの代わりにプロキシとして動作します。イベントゲートウェイはイベントバスに対して、スイッチおよび対応する DeviceID を表示します。

スイッチは、イベントゲートウェイとの接続が成功するとすぐに、そのホスト名をイベントゲートウェイに宣言します。接続が確立されるたびに、イベントゲートウェイは DeviceID 値を Cisco IOS ホスト名に組み合わせます。イベントゲートウェイは、スイッチと接続している間にこの DeviceID 値をキャッシュします。

ホスト名および DeviceID

DeviceID は、イベントゲートウェイと接続したときに固定され、スイッチホスト名を再設定した場合でも変更されません。

スイッチのスイッチホスト名を変更する場合、DeviceID をリフレッシュする唯一の方法はスイッチとイベントゲートウェイ間の接続を中断することです。**no cns event** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力してから、**cns event** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力します。

接続が再確立されると、スイッチは変更したホスト名をイベントゲートウェイに送信します。イベントゲートウェイは DeviceID を新しい値に再定義します。



注意

Configuration Engine ユーザインターフェイスを使用する場合、スイッチで **cns config initial** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用する前ではなく、使用したあとにスイッチが取得したホスト名の値に、DeviceID フィールドを最初に設定する必要があります。そうしないと、後続の **cns config partial** グローバル コンフィギュレーション コマンドの操作が誤動作します。

ホスト名、DeviceID、ConfigID の使用方法

スタンドアロンモードでは、ホスト名の値をスイッチに設定すると、コンフィギュレーションサーバはイベントをホスト名に送信する場合、そのホスト名を DeviceID として使用します。ホスト名が設定されていない場合、イベントはデバイスの **cn=<value>** で送信されます。

サーバモードでは、ホスト名は使用されません。このモードでは、一意の DeviceID アトリビュートは、常にバス上のイベントを送信するために使用されます。このアトリビュートが設定されていない場合は、スイッチを更新できません。

Configuration Engine で **Setup** を実行する場合、これらのアトリビュートおよび関連するアトリビュート（タグ値のペア）を設定します。



(注)

Configuration Engine のセットアップ プログラムの実行の詳細については、次の URL にある Configuration Engine のセットアップおよびコンフィギュレーション ガイドを参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/netmgtsw/ps4617/prod_installation_guides_list.html

Cisco IOS エージェントの概要

CNS イベント エージェント機能によって、スイッチはイベント バス上でイベントにパブリッシュおよびサブスクライブを行い、Cisco IOS エージェントと連携できます。Cisco IOS エージェント機能は、次の機能によりスイッチをサポートします。

- 「初期設定」(P.4-5)
- 「差分 (部分) 設定」(P.4-6)
- 「同期設定」(P.4-6)

初期設定

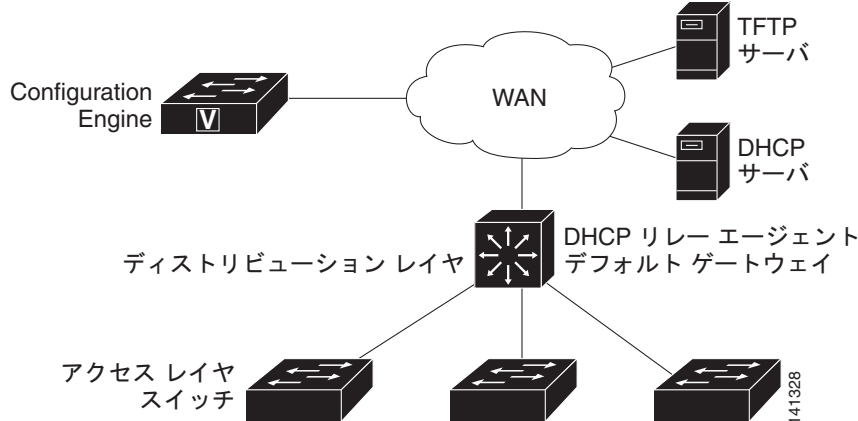
スイッチが最初に起動すると、ネットワークで Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) 要求をブロードキャストすることで IP アドレスを取得しようとします。サブネット上には DHCP サーバがないものと想定し、ディストリビューション スイッチは DHCP リレー エージェントとして動作し、要求を DHCP サーバに転送します。DHCP サーバは要求を受信すると、新しいスイッチに IP アドレスを割り当て、Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバの IP アドレス、ブートストラップ コンフィギュレーション ファイルへのパス、デフォルト ゲートウェイの IP アドレスを、DHCP リレー エージェントに対するユニキャスト応答に組み入れます。DHCP リレー エージェントは、この応答をスイッチに転送します。

スイッチは、割り当てられた IP アドレスを自動的にインターフェイス VLAN 1 (デフォルト) に設定し、TFTP サーバからブートストラップ コンフィギュレーション ファイルをダウンロードします。ブートストラップ コンフィギュレーション ファイルが正常にダウンロードされると、スイッチはそのファイルを実行コンフィギュレーションにロードします。

CNS IOS エージェントは、該当する ConfigID および EventID を使用して Configuration Engine との通信を開始します。Configuration Engine はこの ConfigID をテンプレートにマッピングして、スイッチに完全なコンフィギュレーション ファイルをダウンロードします。

図 4-2 に、DHCP ベースの自動設定を使用して初期ブートストラップ コンフィギュレーション ファイルを取得するためのネットワーク構成例を示します。

図 4-2 初期設定の概要



差分（部分）設定

ネットワークが稼動すると、Cisco IOS エージェントを使用して新しいサービスを追加できます。差分（部分）設定は、スイッチに送信できます。実際の設定を、イベントペイロードとしてイベントゲートウェイを介して（プッシュ処理）、またはスイッチにプルオペレーションを開始させる信号イベントとして送信できます。

スイッチは、適用する前に設定の構文をチェックできます。構文が正しい場合は、スイッチは差分設定を適用し、コンフィギュレーションサーバに成功を信号で伝えるイベントを発行します。スイッチが差分設定を適用しない場合、エラーステータスを示すイベントを発行します。スイッチが差分設定を適用した場合、NVRAM に書き込むか、または書き込むように指示されるまで待つことができます。

同期設定

スイッチは、設定を受信した場合、書き込み信号イベントの受信時に設定の適用を遅らせることができます。書き込み信号イベントは、アップデートされた設定を NVRAM に保存しないようにスイッチに指示します。スイッチはアップデートされた設定を実行コンフィギュレーションとして使用します。これによりスイッチの設定は、次の再起動時の使用のために NVRAM に設定を保存する前に、他のネットワーク アクティビティと同期化されます。

Cisco IOS エージェントの設定

スイッチの Cisco IOS ソフトウェアに組み込まれた Cisco IOS エージェントによって、スイッチを接続して自動的に設定できます（「[自動 CNS 設定のイネーブル化](#)」(P.4-7) を参照）。設定を変更する場合、またはカスタム コンフィギュレーションをインストールする場合は次の手順を参照してください。

- 「[CNS イベント エージェントのイネーブル化](#)」(P.4-8)
- 「[Cisco IOS CNS エージェントのイネーブル化](#)」(P.4-9)

自動 CNS 設定のイネーブル化

スイッチの自動 CNS 設定をイネーブルにするには、まず表 4-1 の条件を満たす必要があります。条件設定を完了したらスイッチの電源を入れます。**setup** プロンプトでは何も実行しません。「初期設定」(P.4-5) に示されている方法で、スイッチは初期設定を開始します。コンフィギュレーション ファイル全体がスイッチにロードされると作業は完了です。

表 4-1 自動設定イネーブル化の条件

デバイス	必要な設定
アクセス スイッチ	出荷時の設定 (コンフィギュレーション ファイルなし)
ディストリビューション スイッチ	<ul style="list-style-type: none"> IP ヘルパー アドレス DHCP リレー エージェントのイネーブル化 IP ルーティング (デフォルト ゲートウェイとして使用する場合)
DHCP サーバ	<ul style="list-style-type: none"> IP アドレスの割り当て TFTP サーバの IP アドレス TFTP サーバのブートストラップ コンフィギュレーション ファイルへのパス デフォルト ゲートウェイの IP アドレス
TFTP サーバ	<ul style="list-style-type: none"> スイッチと Configuration Engine との通信を可能にする CNS コンフィギュレーション コマンドを含むブートストラップ コンフィギュレーション ファイル (デフォルトのホスト名の代わりに) スイッチ MAC アドレスまたはシリアル番号のいずれかを使用して ConfigID および EventID を生成するように設定されたスイッチ スイッチにコンフィギュレーション ファイルをプッシュするように設定された CNS イベント エージェント
CNS Configuration Engine	デバイス タイプ別の 1 つ以上のテンプレートで、テンプレートにデバイスの ConfigID がマッピングされています。



(注)

Configuration Engine のセットアッププログラムの実行および Configuration Engine でのテンプレートの作成については、次の URL にある『Cisco Configuration Engine Installation and Setup Guide, 1.5 for Linux』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/docs/net_mgmt/configuration_engine/1.5/installation_linux/guide/setup_1.html

CNS イベント エージェントのイネーブル化



(注)

スイッチ上で CNS イベント エージェントをイネーブルにしてから、CNS コンフィギュレーション エージェントをイネーブルにする必要があります。

スイッチ上で CNS イベント エージェントをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>cns event {hostname ip-address} [port-number] [backup] [failover-time seconds] [keepalive seconds retry-count] [reconnect time] [source ip-address]</code>	<p>イベント エージェントをイネーブルにして、ゲートウェイ パラメータを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>{hostname ip-address}</code> に、イベント ゲートウェイのホスト名または IP アドレスを入力します。 • (任意) <code>port number</code> に、イベント ゲートウェイのポート番号を入力します。デフォルトのポート番号は 11011 です。 • (任意) バックアップ ゲートウェイであることを示す場合は、<code>backup</code> を入力します (省略した場合は、プライマリ ゲートウェイになります)。 • (任意) <code>failover-time seconds</code> に、バックアップ ゲートウェイへのルートが確立されたあと、スイッチがプライマリ ゲートウェイを待機する時間を入力します。 • (任意) <code>keepalive seconds</code> に、スイッチがキープアライブ メッセージを送信する間隔を入力します。<code>retry-count</code> に、キープアライブ メッセージへの応答がない場合に接続を終了するまでのメッセージ送信回数を入力します。デフォルトはいずれも 0 です。 • (任意) <code>reconnect time</code> に、スイッチがイベント ゲートウェイへの再接続を試行するまでの最大待機時間を入力します。 • (任意) <code>source ip-address</code> に、このデバイスの送信元 IP アドレスを入力します。 <p>(注) <code>encrypt</code> キーワードおよび <code>clock-timeout time</code> キーワードは、コマンドラインのヘルプ ストリングに表示されますが、サポートされていません。</p>
ステップ 3	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	<code>show cns event connections</code>	イベント エージェントに関する情報を確認します。
ステップ 5	<code>show running-config</code>	設定を確認します。
ステップ 6	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

CNS イベント エージェントをディセーブルにするには、`no cns event {ip-address | hostname}` グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、CNS イベント エージェントをイネーブルにして、IP アドレス ゲートウェイを 10.180.1.27、キープアライブ間隔を 120 秒、リトライ回数を 10 回に設定する例を示します。

```
Switch(config)# cns event 10.180.1.27 keepalive 120 10
```

Cisco IOS CNS エージェントのイネーブル化

CNS イベント エージェントをイネーブルにしたあと、スイッチ上で Cisco IOS CNS エージェントを起動します。次のコマンドを使用して、Cisco IOS エージェントをイネーブルにできます。

- **cns config initial** グローバル コンフィギュレーション コマンドは、Cisco IOS エージェントをイネーブルにして、スイッチの初期設定を開始します。
- **cns config partial** グローバル コンフィギュレーション コマンドは、Cisco IOS エージェントをイネーブルにして、スイッチの部分的な設定を開始します。Configuration Engine 使用して、リモートでスイッチに差分設定を送信できます。

初期設定のイネーブル化

スイッチ上で CNS コンフィギュレーション エージェントをイネーブルにして初期設定を開始するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	cns template connect name	CNS テンプレート接続コンフィギュレーション モードを開始して、CNS 接続テンプレートの名前を指定します。
ステップ 3	cli config-text	CNS 接続テンプレートのコマンドラインを入力します。テンプレートの各コマンドラインでこの手順を繰り返します。
ステップ 4		別の CNS 接続テンプレートを設定する場合は、ステップ 2～3 を繰り返します。
ステップ 5	exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 6	cns connect name [retries number] [retry-interval seconds] [sleep seconds] [timeout seconds]	<p>CNS 接続コンフィギュレーション モードを開始して、CNS 接続プロファイルの名前を指定し、プロファイルパラメータを定義します。スイッチは CNS 接続プロファイルを使用して、Configuration Engine に接続します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CNS 接続プロファイルの名前を入力します。 • (任意) retries number に、接続のリトライ回数を入力します。指定できる範囲は 1～30 です。デフォルトは 3 です。 • (任意) retry-interval seconds に、Configuration Engine への連続する接続試行間隔を入力します。指定できる範囲は 1～40 秒です。デフォルトは 10 秒です。 • (任意) sleep seconds に、最初の接続試行を実行するまでの時間を入力します。指定できる範囲は 0～250 秒です。デフォルトは 0 です。 • (任意) timeout seconds に、接続試行終了後経過する時間を入力します。指定できる範囲は 10～2000 秒です。デフォルトは 120 です。

	コマンド	目的
ステップ 7	discover { controller <i>controller-type</i> dcli [subinterface <i>subinterface-number</i>] interface [<i>interface-type</i>] line <i>line-type</i> }	CNS 接続プロファイルのインターフェイス パラメータを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • controller <i>controller-type</i> に、コントローラ タイプを入力します。 • dcli に、アクティブな Data-Link Connection Identifier (DLCI; データリンク接続識別子) を入力します。 (任意) subinterface <i>subinterface-number</i> に、アクティブな DLCI を検索するのに使用されるポイントツーポイント サブインターフェイス番号を指定します。 • interface [<i>interface-type</i>] に、インターフェイス タイプを入力します。 • line <i>line-type</i> に、ライン タイプを入力します。
ステップ 8	template <i>name</i> [... <i>name</i>]	スイッチの設定に適用される CNS 接続プロファイル内の CNS 接続テンプレートのリストを指定します。複数のテンプレートを指定できます。
ステップ 9		インターフェイス パラメータおよび CNS 接続プロファイル内の CNS 接続テンプレートをさらに指定する場合は、ステップ 7 ~ 8 を繰り返します。
ステップ 10	exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 11	hostname <i>name</i>	スイッチのホスト名を入力します。
ステップ 12	ip route <i>network-number</i>	(任意) IP アドレスが <i>network-number</i> の Configuration Engine へのスタティック ルートを確立します。

コマンド	目的
<p>ステップ 13 cns id <i>interface num</i> {dns-reverse ipaddress mac-address} [event] [image]</p> <p>または</p> <p>cns id {hardware-serial hostname string string udi} [event] [image]</p>	<p>(任意) Configuration Engine が使用する一意の EventID または ConfigID を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>interface num</i> に、インターフェイス タイプ (たとえば、イーサネット、Group-Async、Loopback、Virtual-Template) を入力します。この設定では、一意の ID を定義するためにどのインターフェイスから IP アドレスまたは MAC アドレスを取得するかを指定します。 {dns-reverse ipaddress mac-address} では、ホスト名を取得してそのホスト名を固有識別情報 (UID) として割り当てるには dns-reverse を、IP アドレスを使用するには ipaddress を、MAC アドレスを UID として使用するには mac-address を入力します。 (任意) ID をスイッチの識別に使用する event-id 値になるように設定するには、event を入力します。 (任意) ID をスイッチの識別に使用する image-id 値になるように設定するには、image を入力します。 <p>(注) event と image 両方のキーワードを省略した場合、スイッチの識別には image-id 値が使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> {hardware-serial hostname string string udi} では、UID としてのスイッチのシリアル番号を設定するには hardware-serial を、UID としてのスイッチのホスト名を選択するには (デフォルト)、hostname を、UID としての Unique Device Identifier (UDI; 固有デバイス識別情報) を設定するには、UID として string string に任意のテキスト ストリングを入力するか、または udi を入力します。

	コマンド	目的
ステップ 14	cns config initial {hostname ip-address} [port-number] [event] [no-persist] [page page] [source ip-address] [syntax-check]	<p>Cisco IOS をイネーブルにし、初期設定を開始します。</p> <ul style="list-style-type: none"> {hostname ip-address} に、コンフィギュレーションサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。 (任意) port number に、コンフィギュレーションサーバのポート番号を入力します。デフォルトのポート番号は 80 です。 (任意) 設定が完了したときの設定の成功、失敗、または警告のメッセージ用に event をイネーブルにします。 (任意) cns config initial グローバル コンフィギュレーション コマンドの入力結果によってプルされた設定の NVRAM への自動書き込みを抑制するには、no-persist を入力します。no-persist キーワードを入力しない場合、cns config initial コマンドを使用すると、その結果の設定が自動的に NVRAM に書き込まれます。 (任意) page page に、初期設定の Web ページを入力します。デフォルトは /Config/config/asp です。 (任意) 送信元 IP アドレスに使用するには、source ip-address を入力します。 (任意) このパラメータを使用したときの構文をチェックするには、syntax-check をイネーブルにします。 <p>(注) encrypt キーワード、status url キーワード、および inventory キーワードは、コマンドラインのヘルプストリングに表示されますが、サポートされていません。</p>
ステップ 15	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 16	show cns config connections	コンフィギュレーション エージェントに関する情報を確認します。
ステップ 17	show running-config	設定を確認します。

CNS Cisco IOS エージェントをディセーブルにするには、**no cns config initial** {ip-address | hostname} グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、スイッチの設定が不明な場合にリモート スイッチ上で初期設定を行う例を示します (CNS Zero Touch 機能)。

```
Switch(config)# cns template connect template-dhcp
Switch(config-tmpl-conn)# cli ip address dhcp
Switch(config-tmpl-conn)# exit
Switch(config)# cns template connect ip-route
Switch(config-tmpl-conn)# cli ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 ${next-hop}
Switch(config-tmpl-conn)# exit
Switch(config)# cns connect dhcp
Switch(config-cns-conn)# discover interface gigabitethernet
Switch(config-cns-conn)# template template-dhcp
Switch(config-cns-conn)# template ip-route
Switch(config-cns-conn)# exit
Switch(config)# hostname RemoteSwitch
RemoteSwitch(config)# cns config initial 10.1.1.1 no-persist
```

次に、スイッチの IP アドレスが既知である場合にリモート スイッチ上で初期設定を行う例を示します。Configuration Engine の IP アドレスは、172.28.129.22 です。

```
Switch(config)# cns template connect template-dhcp
Switch(config-tmpl-conn)# cli ip address dhcp
Switch(config-tmpl-conn)# exit
Switch(config)# cns template connect ip-route
Switch(config-tmpl-conn)# cli ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 ${next-hop}
Switch(config-tmpl-conn)# exit
Switch(config)# cns connect dhcp
Switch(config-cns-conn)# discover interface gigabitethernet
Switch(config-cns-conn)# template template-dhcp
Switch(config-cns-conn)# template ip-route
Switch(config-cns-conn)# exit
Switch(config)# hostname RemoteSwitch
RemoteSwitch(config)# ip route 172.28.129.22 255.255.255.255 11.11.11.1
RemoteSwitch(config)# cns id ethernet 0 ipaddress
RemoteSwitch(config)# cns config initial 172.28.129.22 no-persist
```

部分設定のイネーブル化

スイッチ上で Cisco IOS エージェントをイネーブルにして部分設定を開始するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	cns config partial {ip-address hostname} [port-number] [source ip-address]	<p>コンフィギュレーション エージェントをイネーブルにし、部分設定を開始します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • {<i>ip-address hostname</i>} に、コンフィギュレーション サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。 • (任意) <i>port number</i> に、コンフィギュレーション サーバのポート番号を入力します。デフォルトのポート番号は 80 です。 • (任意) 送信元 IP アドレスに使用するには、source ip-address を入力します。 <p>(注) encrypt キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtring に表示されますが、サポートされていません。</p>
ステップ 3	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	show cns config stats または show cns config outstanding	コンフィギュレーション エージェントに関する情報を確認します。
ステップ 5	show running-config	設定を確認します。
ステップ 6	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

CNS Cisco IOS エージェントをディセーブルにするには、**no cns config partial {ip-address | hostname}** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。部分設定を取り消すには、**cns config cancel** 特権 EXEC コマンドを使用します。

CNS 設定の表示

表 4-2 に記載された特権 EXEC コマンドを使用すると、CNS 設定情報を表示できます。

表 4-2 CNS 設定の表示

コマンド	目的
show cns config connections	CNS Cisco IOS エージェントの接続のステータスを表示します。
show cns config outstanding	開始されたがまだ終了していない差分（部分）CNS 設定に関する情報を表示します。
show cns config stats	Cisco IOS エージェントに関する統計情報を表示します。
show cns event connections	CNS イベント エージェントの接続のステータスを表示します。
show cns event stats	CNS イベント エージェントに関する統計情報を表示します。
show cns event subject	アプリケーションによってサブスクライブされたイベント エージェントのサブジェクト一覧を表示します。